

2024年度

佐賀大学学校推薦型選抜Ⅰ試験問題

教育学部

学校教育課程

(小中連携教育コース)

小論文

解答上の注意事項

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 「解答始め」の合図があったら、解答紙の所定欄に受験番号、氏名を記入すること。
- 3 問題の解答は、別に指示がある場合を除き、所定の解答欄に記入すること。
- 4 問題について、疑問がある場合は、手を挙げて質問を行うこと。
- 5 問題紙、下書き用紙は持ち帰ってはならない。
- 6 その他、監督者の指示に従うこと。

【問】以下の文章は、「学び合い」について書かれています。文章を読み、下線部の問題意識を踏まえた上で、あなたがこれまで学校で経験した「ペアやグループ活動」を振り返りながら「学び合い」についてのあなたの考えを800字以内で述べなさい。

学び合いと社会的構成主義

認知心理学には「構成主義」という考え方があります。簡単に説明すると、学習者を「白紙」の状態で知識や情報をインプットし受動的に蓄えていく存在として捉えるのではなく、主体的にかかわりながら、体験や既存の知識と関連づけながら知識や情報を構成していく存在であると捉える考え方です。前者の考え方は「客観主義」と呼ばれ、教える側（教師）が、効率的に知識や情報を伝達する方法を開発することが重要になり、いわゆる「教え方」が問われることになります。一方、「構成主義」では、学習者（子ども）が、主体的に世界（人、もの、こと）にかかわっていくことが重視されるので、学習者の「学び方」が問われるわけです。

また、「構成主義」が、個の中で知識が構成されるという立場をとるのに対して、「社会的構成主義」は、知識は人と人とのかかわりの中で構成されていくとします。つまり、協働的な活動を行うことによって他者と相互作用を行い、その過程の中で知識の再構成が可能となると考えるわけです。相互作用のためには、それぞれの学習者が自らの考えをもち、それらを出し合いながら学習を進めることになります。その場合に必要になるのが「対話」であり、その道具となる「言語」です。

重要なことは、対話による相互作用によって、より自分の考えが変化したり、深まったりするということです。漠然としていた自分の意見を相手に話してみることによって、考えがより明らかになるということがあります。また、相手の意見を聞いてみて「なるほど、そうだな。相手の意見に賛成できる」とか「たしかにそうだが、自分の意見とはここが違うな」と自分の考えが更新されていくこともあるでしょう。私は、このような相互作用による学習のことを「学び合い」と捉えています。

最近の学校の研究テーマを見ると、「学び合い」や「かかわり合い」といった言葉がふんだんに盛り込まれており、これらは、社会的構成主義の影響を受けているものと考えられます。このような研究を行っている学校では、ペアやグループ活動による話し合いを重視しますが、授業形態の真似だけで肝心の相互作用が起これないということがあ
るのではないのでしょうか。

授業形態の真似で終わらせないためには、まず「学び合い」を「手法」として捉えるのではなく、「学習の考え方」として捉えなくてはなりません。また、一人一人の子どもたちの考えが変化したり深まったりしたかどうかを教師が把握していく必要があります。

そのための一つの方法が、学習過程の中で、子どもたちが自らの学びを振り返るための「自己評価」を取り入れるということです。自己評価活動を教師が繰り返し評価していくことで、子どもたちは「学び」を意識し、意図的に学ぶようになっていきます。

【出典】前田康裕 『まんがで知る教師の学び』 さくら社 （2016）

（注）出題に際して一部改変を加えた。